

SHOW HEY シネマルーム



Data
監督：ニール・ブロムカンプ
製作：ピーター・ジャクソン
出演：シャルト・コブリー/デヴィッド・ジェームズ/ジェイソン・コーブ/ヴァネッサ・ハイウッド

👁️👁️ みどころ

安い予算でも、新人監督でも、スターなしでも、企画さえ良ければ映画は大ヒット！その典型が本作だが、まずはあなたの常識を覆す独創的なエイリアンの姿に注目！

「人間以外立入り禁止」の看板が溢れる南ア、ヨハネスブルグの風景は異様だが、謎の感染によってエイリアンのアイデンティティを持つことになった主人公は大変。さて、彼の生きざまは？そして、奇想天外な物語の行き着く先に、見えてくるものは？

* * * * *

こんなエイリアンをはじめて！

地球外生命体をテーマとした映画は、『タイタニック』（97年）に代わって歴代興行収入トップの座に立ったジェームズ・キャメロン監督の『アバター』（09年）をはじめたくさんある。中でも、エイリアンという言葉は、『エイリアン1～4』（79年、86年、92年、97年）までの『エイリアン』シリーズによって広く知られている。そんな中で一定のエイリアン像がつけられてきたが、さて本作にみるエイリアン像とは？

ニール・ブロムカンプ監督がイメージしたエイリアンは、「昆虫の外骨格と甲殻類の外骨格を合わせるというのが、基本アイデア」らしいが、まずは本作にみるエイリアンのユニークな姿に注目！

こんな設定もはじめて！

次に、宇宙船に乗って地球にやって来た地球外生命体というと、地球人以上に知能が優

秀というイメージがあるが、本作にみるエイリアンは？

映画冒頭、ニュース方式で報じられるのは、南アフリカ共和国の首都ヨハネスブルグ上空に停止したままの巨大宇宙船の中に入っていくと、息も絶え絶え状態のエイリアンが窒息していたこと。そんな難民エイリアン(?)は優秀な知能どころか、言葉が通じないうえ凶暴で野蛮、そして不潔だったから、南アフリカの人民は大変。エイリアンは甲殻類に似た外見をしていることから「エビ」と蔑称され、「第9地区」の仮住居に隔離されたのは当然だが、エイリアンの登場する映画でこんな設定ははじめて。さて、そこから物語はどんな風に展開？

『インビクタス』とは全く違う南アフリカの姿が

2010年には南アフリカでサッカーの世界カップが開催されるが、クリント・イーストウッド監督の『インビクタス/負けざる者たち』(09年)は、ラグビーの世界カップで南アフリカを優勝させることに夢をかけたマンデラ大統領の姿を描いた驚くほどシンプルな映画だった。そこでは、貧しい南アフリカの人々がラグビーに熱狂する姿が印象的だったが、同じ南アフリカでも本作が描くヨハネスブルグの第9地区周辺は、それとは全く違う雰囲気になっている。

人間とエイリアンとの対立・抗争は20年間続いてきたが、ニュースに見るその抗争ぶりはすさまじい。そんな中、「第9地区」は荒れに荒れ、スラム化していくとともに怪しげなギャング集団も大成。そんな中、エイリアンの管理事業の委託を受けていた民間企業マルチ・ナショナル・ユナイテッド社が今般決定したのは、傭兵部隊の力を借りて市内にある第9地区から郊外にある第10地区への強制移住。『インビクタス/負けざる者たち』では白人と黒人の融和を掲げるマンデラ大統領の指導力の下に団結していく南アフリカ国民の姿が印象的だったが、本作ではそれとは全く逆の荒れた南アフリカの姿が登場する。20年間上空に停止したままの宇宙船による実害がないのは幸いだが、人間とエイリアンとの抗争が激化すれば、ひょっとしていつの日かこの宇宙船も動き出すことに？

なぜ、ヴィカスが現場責任者に？

本作の主人公ヴィカス(シャルト・コプリー)はマルチ・ナショナル・ユナイテッド社(MNU)の社員だが、なぜか今回はエイリアンの強制移住計画の責任者に大抜擢。これはひょっとして、妻タニア(ヴァネッサ・ハイウッド)の父親であるクーバス大佐(デヴィッド・ジェームズ)による身内重用の偏った人事？しかし、そんな配慮(?)が結果としてヴィカスを、そしてその家族を不幸のドン底に追いやることになるうとは。

テレビカメラの前で自己紹介し、とうとうと自説を展開するヴィカスは、いかにも策士タイプのクーバス大佐とは大違いで、何となく薄っぺらそうな感じ。したがって、第9地区へ入って一軒一軒で移住計画を説明し、それに承諾する旨のサインをもらい受ける姿勢

は陽気で親切だが、こんなやり方でホントにうまくいくの？

あるエイリアンと小さな筒に注目！

一軒一軒回っていくうちにたどり着いたのが、一人息子と一緒にある住居で暮しているエイリアンのクリストファー・ジョンソン（ジェイソン・コープ）赤いベストのようなものを着ている（？）このエイリアンが、アカデミー賞脚色賞にノミネートされたストーリーの核となるから要注目。また、本作が後半に至ってあっと驚く展開を見せる原動力になるのが、小さな一本の筒。クリストファーの動きを見ているとここには何かの液体が入っているようだが、これは一体ナニ？

不潔な第9地区に平気で入り込み、野蛮なエイリアンから不当な暴力を受けてもなお説得を諦めないヴィカスの勇気と行動力には感心するが、もしウイルス感染でもしたら一体どうするの？そんな心配が現実になるのが、この一本の小さい筒からだ。それをいじっているうち、何らかの液体の噴霧を受けたヴィカスは謎のウイルスに感染し、何と左手がエイリアンの手になってしまうのだが、ここから物語は意外な展開をしていくことになるから、それに注目！

巨大ロボットと傭兵部隊との対決は余分？

私は本作の直前に観た『オーケストラ！』（09年）のような感動モノが大好き。逆に、巨大ロボットが登場し、瞬時の合体・変形をくり返す『トランスフォーマー』（07年）のような近時大流行のハリウッド映画はあまり好きではない。しかし、そんな私の目にも、本作に見るエイリアンの姿は結構興味深い。また、ヴィカスとクリストファーが容器の奪還という共通の目的のために共同戦線を張る中で、後半に展開されるMNUの傭兵部隊との戦闘シーンも結構興味深い。

そこでの最大のアイデアは、エイリアンのつくり出した武器を人間は使うことができないが、謎のウイルス感染によって左手がエイリアン状態になってしまったヴィカスは、エイリアンのDNAを持ったためこれを操作することができるということだ。そのため、ひ弱なヴィカスでも左手でエイリアンの武器を使うと百人力？

そこまでは面白いのだが、その後クリストファーのコンピューター制御によって登場する巨大ロボットの



(C)2009 District 9 Ltd All Rights Reserved.

中にヴィカスが乗り込み、この巨大ロボットが傭兵部隊と闘う姿は、従来のハリウッド映画と同じだからつまらない。私の独断と偏見によれば、この部分は余分だったのでは？したがって、本作は星5つとしているが、本意は星4.5？

この後は一体どんな展開に？

本作の製作費は30億円と言われている。それは日本では大きい、『スター・トレック』（09年）や『トランスフォーマー』などのハリウッド超大作に比べると、それほど大きい額ではない。また、監督も新人ならビッグネームの俳優もゼロなのに、そんな本作が興行収入1億ドル（約90億円）を超えたうえ、アカデミー賞作品賞にノミネートされたのは、一体なぜ？それは超独創的なエイリアンの創造と、ウイルス感染によって人間とエイリアン両方のアイデンティティを持つことになった主人公ヴィカスが織りなす物語の奇想天外さのおかげ。とりわけ後半では、ヴィカスとリーダーらしい赤ベストのエイリアン、クリストファーとの小さな筒の奪還という共通目標のために結びついた共闘のあり方に焦点が移る。

しかして、本作はある一つの結末を迎えるのだが、それによってすべてが解決したわけではないところがミソだ。つまり、ヨハネスブルグの上空に浮かんだまま停止していた巨大な宇宙船が20年ぶりに動き始めるのだが、それに乗っているのはクリストファーとその一人息子だけ。他方、最後の最後に犠牲的精神を発揮して、クリストファーを宇宙船に乗せるための援護役を果たしたヴィカスの運命は？そして何よりも、MNUの強制力によってそのほとんどが今や第10地区に移転させられてしまった約180万人（体？）のエイリアンの運命は？本作のそんな余韻をもった終わり方（？）は、場合によれば『第9地区パート2』製作の可能性を予言しているのかもしれないが、本作終了後の南アフリカにおける人間とエイリアンたちの展開はいかに？そんな点にも、興味を持続したい。

ひょっとして、本作はアカデミー賞脚色賞の本命？

本作は第82回アカデミー賞の編集賞と視覚効果賞に『アバター』と共にノミネートされたうえ、脚色賞では『アバター』を押し退けて（？）ノミネート。作品賞と合わせて計4部門のノミネートはお見事だ。

私の予想では、今年から10作品となった作品賞はムリだろうし、編集賞と視覚効果賞もやっぱり『アバター』が本命。しかし、脚色賞にノミネートされた他の4作品『17歳の肖像』『イン・ザ・ループ』『プレシャス』『マイレージ、マイライフ』のうち、『17歳の肖像』『イン・ザ・ループ』『プレシャス』はまだ観ていないが、本作が大ヒットした原動力は何ともユニークでオリジナルな脚色だから、本作が脚色賞を受賞する可能性は十分。ひょっとして、本作はアカデミー賞脚色賞の本命？

2010（平成22）年3月1日記